



市議会3月定例会が2月26日(火)～3月27日(水)まで行われ、予算9件、報告案件1件、条例案件21件、補正予算8件など、合わせて42件が審議され、可決・承認されました。

今回はその中から、主なものを紹介します。なお、平成25年度の予算は4～7ページで紹介します。

裾野市新型インフルエンザ等 対策本部条例の制定

新型インフルエンザ等特別措置法の施行に伴い、新型インフルエンザ等緊急事態宣言がされたときに設置する対策本部に関し必要な事項を定めるため、新たに条例を制定しました。

裾野市景観条例の制定

落ち着きと統一感のある景観の形成と景観計画を推進するために、必要な事項を定めるため本条例を制定しました。

裾野市証人等に対する 実費弁償に関する条例の一部の改正

地方自治法の一部改正に伴い、本会議における公聴会の参加者と招致された参考人が実費弁償の対象に加えられたため、本条例の一部を改正しました。

地域主権改革一括法の施行に伴い 新たに制定された条例

- 裾野市準用河川に係る河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例
- 裾野市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例
- 裾野市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例
- 裾野市が管理する市道の構造の技術的基準等を定める条例

地域主権改革一括法の施行に伴い、 一部改正された条例

- 裾野市営住宅条例
- 裾野市都市公園条例

消防団員の定数、任免、給与、服務等に関する 条例の一部の改正

消防団員の報酬額について、近隣市町との均衡を考慮して、本条例の一部を改正しました。

静岡県市町総合事務組合を組織する 地方公共団体の数の減少と規約の変更

組合構成団体の一部が脱退するため、本規約の一部

を変更しました。

駿豆学園管理組合規約の一部の変更

関係する法律の施行に伴い、本規約の一部を変更しました。

補 正 予 算

一般会計補正予算（第6回）

既定の予算総額に1億2,700万円を追加し、歳入歳出予算総額をそれぞれ192億1,500万円としました。繰越明許費は、裾野東工事用道路（新東名側道）用地取得事業など25件を計上しました。

歳出の補正の主な内容は、自立支援給付費、各種がん検診委託料、社会資本整備総合交付金事業費、裾野駅周辺整備費などの増額、在宅福祉費、集会所建設事業費、民生安定施設道路整備事業費、平松深良線街路費、市民文化センター音響設備改修工事費などの国、県の補助金確定や事業費の確定による減額です。

歳入の補正の内容は、市税である法人市民税、市たばこ税などの増額、地方交付税、国庫支出金、県支出金、繰越金などの増額、地方特例交付金、財産収入、財政調整基金繰入金などの減額です。

国民健康保険特別会計補正予算（第4回）

既定の予算総額に1億6,161万4,000円を追加し、歳入歳出予算総額をそれぞれ52億2,933万5,000円としました。

特別会計補正予算（第1回） 後期高齢者医療事業

既定の予算総額に1,343万4,000円を追加し、歳入歳出予算総額をそれぞれ4億2,293万4,000円としました。

介護保険特別会計補正予算（第3回）

既定の予算総額から150万円を減額し、歳入歳出予算総額を26億6,953万6,000円としました。

特別会計補正予算（第1回） 十里木高原簡易水道

既定の予算総額から1,791万6,000円を減額し、歳入歳出予算総額を8,208万4,000円としました。

下水道事業特別会計補正予算（第3回）

既定の予算総額から5,800万円を減額し、歳入歳出予算総額を10億4,349万円としました。繰越明許費は、管路築造工事（第5工区）を計上しました。

一般会計補正予算（第7回）

既定の予算総額に900万円を追加し、歳入歳出予算総額をそれぞれ192億2,400万円としました。

主な内訳は、国の緊急経済対策を柱とする補正予算を活用し、歳入で教育費国庫補助金408万円を受け、小中学校に理科教育備品を購入する目的で、816万円を増額補正しました。また、年度内に事業執行することが困難なため繰り越しました。

また、予算総額を100万円単位に調整するため、予備費84万円を増額しました。

下水道事業特別会計補正予算（第4回）

建設事業費のうち、公共下水道事業費における工事請負費の確定に伴い、1,230万円を繰り越しました。繰り越しの内容は、工事請負費1件です。

財源内訳は、国庫支出金600万円、地方債540万円、一般財源90万円です。

この歳入歳出は、平成24年度社会資本整備総合交付金の内定を平成25年2月26日に受け、2月28日に交付申請を行いました。このため、年度内竣工は困難であることから、繰り越しました。